

学校 教育 目標	「自分・友達・まちがすき 自ら学び 未来へとかがやく名瀬っ子」 (知)自ら問題を見つけ、解決に向かって、人と関わりながら学び続ける子 (徳)豊かな心を持ち、自分や周りの人を大切に、よりよく生きようとする子 (体)自身の健康な心と身体のために、自らの生活習慣をつくる子 (公)人や自然とのつながりを大切にする、まちが大好きな子 (開)みんなとつながり、未来に向かって生きようとする子					
	創立 45 周年	学校長 中嶋 孝宏	副校長 芦垣 康志	2 学期制	一般学級: 16	個別支援学級: 3
学校 概要	児童生徒数: 502 人 主な関係校: 名瀬中学校 川上北小学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
(知)思いや考える表現する力 (知)論理的に思考する力 (徳)自分らしさを大切に (徳)他者を理解する態度 (体)健康な生活習慣を営む態度 (公)主体的・積極的に人に 関わろうとする姿勢 (開)夢や希望をもって 学び続けていこうとする姿勢	名瀬中学校 川上北小学校	互いに認め合い、主体的に地域、人、もの、ことと関わり、協働する力やコミュニケーション能力を高めようとする子 ・ブロックで合同授業研究会や各種研修会を開催し、育てたい子どもの姿や各学校の取組を共有して教育活動に生かす。 ・互いに認め合い高め合い対話的な学びを入れた授業づくりを通して、身近な人、もの、ことにかかわりながら問題解決的、協働的に学ぶ学習過程を大切に授業改善に努める。

中期 取組 目標	児童一人ひとりが安心して通える学校 ~ 認め合い ~ ・名瀬小学校らしい「社会に開かれた教育過程」を編成します。 ・自分や友達を大切にしながら、自己有用感を育てます。 ・健康や運動に対して、多様な関わり方(知る、見る、支える)を育てます。 ・学校運営協議会等を充実させ、地域の力を活用します。 ・未来に向かっての自分づくり教育(キャリア教育)を進めます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	①生活科・総合的な学習の時間を中心に授業研究を行い、育成を目指す資質・能力を位置付けた学習を展開する。②朝の15分を子どもたちの実態に応じたスキルタイムとし、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得ができるようにする。
担当 教務部	
豊かな心	①人やまち、社会とのかかわりを大切にした単元となるよう工夫する。②子どもの運営委員会や代表委員会、人権委員会を中心として、子ども人権会議やあいさつ運動、なかよし活動などの取組を充実させる。③「特別な教科 道徳」で、認め合いを大切にした授業を、年一回公開する。
担当 人権・福祉教育部	
健やかな体	①健康づくりのために、健康に関する教科・領域等の授業改善を図る。②健康づくりのために、新体力テスト等の結果を保護者と共有するなどして、家庭と連携し、体力の向上や生活習慣(運動・食事・休養・睡眠)の改善を図る。
担当 健康教育・食育部	
自分づくり教育 (キャリア教育)	①子どもが幼保小中連携、なかよし縦割り活動、地域とのかかわりを通して、こうなりたいという願いをもち、自分らしい生き方について考える。(福祉)②自然体験を通して、身近な環境や自分とのつながりについて、関心を深め、生命や環境を大切にする。(環境)
担当 環境教育部	
児童生徒指導	①名瀬小のきまりを年度当初に全職員で共有し、学年集会などを通して、確実に指導する。②横浜プログラム分析シートを年2回行い、学年で子どもの実態について話し合い、職員会議などで定期的に子どもたちについて情報共有を行う。
担当 児童指導部	
特別支援教育	①一人ひとりの状況にあった学習方法や支援のあり方を工夫し、校内委員会で検討・推進していく。②個別の支援計画・指導計画の作成・活用についての研修を行い、児童の状況についての共通理解の場を設ける。
担当 特別支援教育部	
学校連携 学校運営協議会	①学校説明会や学校だよりで、学校運営協議会の活動を知らせる。②様々な教育活動について、学校だよりやホームページで発信する。③学校評価を適宜行い、教育活動に生かしていく。④地域との関わりを深める教育活動を行う。
担当	
いじめへの対応	①いじめの未然防止、早期発見、事案対応のために、組織的に報告体制を構築する。②月1回の学校いじめ防止対策委員会、また必要に応じた臨時の委員会を開催し、いじめにつながる事案、いじめが疑われる事案、いじめの事案について共有し、対策を講じる。③名瀬っ子人権会議を活用し、いじめ防止に子どもたち自らが取り組むような機会を設ける。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①校内研修を計画的に実施する(コンプライアンス・児童指導・特別支援・いじめへの対応など)とともに、学年・教科・メンターチームなどによる人材育成システムを構築し、研究会・重点研などを通して、教職員同士の組織的な人材育成を図る。②学年研、推進委員会議、主幹教諭会議などを充実し、全体を見通して学校を組織的に運営していくようにする。③グループウェア(ミライム)等を活用して、情報の共有化を図るとともに、会議を精選し、効率化を図り、働き方改革につなげる。
担当 教務部・メンター	